

平成31年度第1回白井市廃棄物減量等推進審議会会議録

1. 開催日時 令和元年5月27日(月) 午後2時30分から午後4時30分まで
2. 開催場所 市役所東庁舎会議室101
3. 出席者 委員 大家委員、吉村委員、菅原委員、清田委員、山谷委員、鬼沢委員、寺田委員、藤本委員、藤田委員、井川委員、市川委員、生田目委員、大野委員
事務局 川上市民環境経済部長、金井環境課長、國松主査、芳賀主査補
欠席者 なし
4. 傍聴者 5人
5. 議題 ①家庭系ごみ減量化・資源化の促進(ごみの有料化導入)について(諮問)
②その他
6. 配布資料 ①審議会次第 ②諮問書(写し) ③家庭系ごみの減量化・資源化の促進(ごみの有料化導入)について
7. 議事 以下のとおり

○事務局 開会
議事に先立ち、家庭系ごみの減量化・資源化促進、ごみの有料化導入について、市長より諮問

○市長 諮問 白井市廃棄物減量等推進審議会会長へ諮問書を手渡す。

○事務局 欠席委員の報告、会議の成立

○市長 あいさつ

- ・市の行政運営への協力に対し御礼。
- ・先日新しく市長に就任したこと。
- ・先ほど会長に諮問をさせていただいたこと。
- ・諮問内容は、さらなるごみの減量化・資源化を目的として、ごみの排出者の意識改革、ごみ減量化リサイクルの推進、環境負担の軽減とごみの処理負担の削減、有料化による減量効果を期待し、ごみの処理費用の一部を手数料として徴収するものであること。
- ・燃やすごみと燃やさないごみについて、有料化を検討をお願いするものであること。
- ・委員の皆様には、いろいろな観点から慎重なる審議をお願いしたい。

○会長 あいさつ

○事務局 今年度の事務局職員の紹介

- 事務局 市長にあっては、公務のため、ここで退席させていただく。
- 事務局 資料の確認
議事進行を会長にお願いし、議題に入る。
- 会 長 本日の会議につきましては、白井市審議会等の会議の公開に関する指針第3により公開をすることが原則となっておりますので、公開することといたします。
なお、本日の傍聴定員は5名となっております。
それでは、お手元の次第によりまして、会議を進めさせていただきます。
初めに、議題1、家庭系ごみの減量化・資源化の促進（ごみの有料化導入）について（諮問）を事務局より説明お願いいたします。
- 事務局 資料（家庭系ごみの減量化・資源化の促進（ごみの有料化導入）について）をもとに家庭系ごみの有料化導入に対する市の考え方を説明。
- 会 長 ただいま事務局のほうからご説明いただきましたけれども、何かご意見、ご質問などがありましたら、発言いただくとありがたいなと思います。いかがでしょうか。
- 委 員 諮問の文章を拝見しますと、これは有料化についての諮問になりますけれども、何のために有料化するのかということが諮問の文章にありまして、その中に市民負担の公平化というのが出てくるのです。たくさん量を出す人と、ごみの減量に努めている人、この間で現在、経済的な負担が全然違わないようなのです。これは非常に不公平なことだと思います。これは当たり前のことなのですけれども。
それも諮問理由の中にあるのですけれども、今ご説明いただいた1番のごみの減量・資源化の目的と期待する効果、ここには出ていないのですけれども、その辺は特に差し支えはないのでしょうか。ごみの減量・資源化の目的というようなことなのか。
- 事務局 そうです。もちろん委員さんおっしゃったとおりに、皆さん今、受益者負担の観点がございますので、この原則に基づくということがございますので、市民負担の公平化ということで進めるということにおきましても、家庭ごみの有料化を進めていくということが必要かなということで考えております。
- 委 員 有料化の値上がりということではなくて、ごみの減量・資源化の目的ということでおまとめになっているので、差し支えないということで結構です。

○会 長 ありがとうございます。有料化にすることによって、出される方の意識改革ができるだろうというところがちょっとつらいところがあるのですけれども、有料化にしなくても、市民一人一人がきちんと意識改革できていけるのが一番いいのでしょうか、今の状況からして、有料化にするのがいたし方ないのかなという感じで見ているのですけれども。

そのほか、どなたかおられませんか。

○委 員 少し確認なのですけれども、白井市の場合、ごみの袋を有料化したのはいつでしたっけ。それと、粗大ごみをシールを張って有料化したのもいつだったか、ちょっと確認で教えてください。

○事務局 粗大ごみの有料化を導入しましたのが、平成19年4月です。指定ごみ袋につきましては、後で再度確認するのですが、たしか印西市さんと統一の袋にした時期と思われます。平成13年ごろだったと思うのですけれども、それはちょっと確認します。

○委 員 多分、ごみ袋を指定にしたことによって、今まで何でも出せたのが、ごみ袋を買わなくちゃいけないということで、市民の意識が少しその時点で変わって減ったのではないかと考えています。粗大ごみの有料化も、その前と後で減ったりしているのではないかとされるのですけれども、1番の(4)のところ、有料化による減量効果ということで、〇〇委員のホームページからとられているのですが、要は意識する人は意識して削減を図るけれども、5年おいても削減効果がどういうふうだということに関しては、これはさほど変わらないと見るべきなのか、浸透していったと見るべきなのか、どちらか。これは〇〇委員、どうやって理解したらよろしいですか。

○委 員 会長のほうから要点を整理していただけますか。

○委 員 〇〇委員のホームページからとられているので、〇〇委員がよくご理解かとお聞きしたいのですけれども、有料化した翌年に、まず10%から20%削減効果があった団体が41%、それから5年たって10%か20%ぐらいの減量があった団体は45%だというのは、これは減量化しようとして意識した人が継続しているというふうに考えるのか、それが浸透したものと、さらに広がったのだと考えるのか、どう考えていらっしゃいますか。

○会 長 事務局からわかりやすく説明できますか。〇〇委員のホームページを閲覧したときに出ていたということですよ。

○事務局　ご質問の趣旨はこういうことでしょうか。○委員のホームページからいただいた内容で、有料化した途端に減量になったものがこれだけあったと。5年たつて減量化されているのがこれだけある。それは、さらにそれに向かって減量がどんどん落ちて進んでいったのか、それとも落ちた段階で意識改革があって、意識改革された状態がずっと浸透して、そのままの状態に行っているのか、そういうことですか。

○委員　そう。

○委員　わかりました。この有料化による減量効果のところ、こういうまとめ方をした部分というのはあったかもしれませんが、私の155市の取りまとめ、有料化都市からの回答、これは有料化した翌年度に、有料化する前の年と比べてどれくらい減ったのかというのを見えています。それから、もう一つは、5年目の年度についても、有料化の前年度との比較で見えております。それを手数料水準が随分異なる都市間で比較しても余り意味ないので、手数料水準を一つの軸にとって、これは横軸なのですけれども、もう一つの軸、縦軸、下のほうへ伸びているのですけれども、平均減量率という形にしました。

それで見ますと、手数料水準が高いほど減量率が高くなると。大体予想できますけれども、そのとおりになったということ。それから、有料化の翌年度と5年目の年度を両方とっているわけですが、5年目の年度のほうが翌年よりも減っている。したがって、平均で見ますと、リバウンドが起きていないというのが確認できたということです。

それから、さらに資源化率についても見ております。資源回収率という収集の段階なのですけれども、中間処理以降については入れていないのですけれども、資源の回収率が高くなっているということです。そういう知見が得られております。それで、ごみ量が随分ふえている時期、2000年以前の話になるのですけれども、リバウンドが生じていたというケースも若干はあったのですけれども、2000年以降というと、1人1日当たりのごみ量が継続的に減っていくと。リーマンショックのときなんかは、相当大きく事業系が落ちていますが、そういう時期も挟んで、家庭系ごみも継続的に減量しているという中で、有料化をしますと、やはりごみの排出が人ごとではなくて、自分ごとなのです。経済的負担というのは誰しもふやしたくはありませんから、どんなふうにしたら減るのだということで、ごみ量を減らすのです。そういうライフスタイルが変わっていく。それから可燃、不燃を有料化するとありますと、資源物を入れるとそういう可燃ごみがふえますから、リサイクルのほうに回そうということで、ごみ量が減るということです。

どのくらい減るのかということなのですけれども、手数料水準によって随分違いますけれども、平均的な手数料水準でいうと、1リットル1円程度です。千葉

市の場合はずっと安いのですけれども、1リットル1円程度の手数料水準で、可燃、不燃ごみというカテゴリーのごみをとっても、十四、五％は十分減ります。そんなような状況です。

1リットル2円程度の価格水準で有料化をしますと、東京多摩地域とか神奈川県の有料化、1リットル2円でやっているのですけれども、この9月末に海老名市で1リットル2円の有料化を始めますけれども、湘南の藤沢、海老名の近くの大和市、逗子市は、調べてみますと、可燃ごみでちょうど2割程度です。これら4市いずれも2割程度減っているという状況が出ております。そういう意味では、ある程度手数料水準が高いほうが減量効果が期待できるし、それから考え方として、安いところで設定して後で引き上げるみたいな対応というのは、理論的には考えられるのではないかと思いますけれども、実際に手数料水準を引き上げるといことは、非常に至難の業ですので、そういう意味ではある程度、1リットル1円を上回る程度の手数料を四街道市もそういうふうな手数料を予定しておりますけれども、ちょっと高めの手数料を設定したほうがいいのではないかなというふうに思います。非常に大きな意識改革効果が発現するというのは間違いないです。

○会 長 ○○委員。

○委 員 ありがとうございました。

○事務局 ちなみに今、出てきたお話のところで、千葉市ですとたしか1リットル当たり0.8円、四街道市ですと1リットル当たり1.2円で算出しています。

○会 長 一般家庭ごみでしたら、生ごみは一番あれで、その中に資源ごみがまだまだ含まれている。そういったところをきちっと分別していけるようになれば、価格を上げてもある程度はペイができるだろうというところも出てくるので。

企業側が出すごみとなると、やはり生ごみというのはほとんどない状況になっていくわけですが、その辺、○○委員、どうですか。企業側として出すごみの中で、資源ごみと燃えるごみの比率的なものというのは。こうするともっと企業側としては、雑がみが一番今のところ多いかとは思っているのですけれども。

○委 員 雑がみなんかは、うちは製造業、容器製造しているのですけれども、いろいろな部品が入ってくる段ボール関係とかは、全部有価でリサイクルに出しているのですけれども。紙ごみ自体もそれほど、徐々に紙の利用も減ってきているので、雑がみも減ってはいるのですけれども、今、企業としての一番悩みは、先ほど一番最初にプラスチックの件を会長もおっしゃっていましたが、プラスチックのごみですかね。そこが一番悩みではあります。

うちの工場の場合は、可燃ごみ自体はそんなに割合は多くなくて、プラスチックと金属とそういったものです。あとは粗大系のごみです。でも、粗大ごみというその辺も鉄関係が多いので、まだ有価では排出できる部分もあるのですけれども。余り参考にならない話になってしまいます。

○会 長 有料化されるという点では、幾らかでも経費が節約できると、一番分別が大事。

○委 員 うちはその分別というところですか。そこが一番大変ではあるのですけれども、そこを徹底していけば、金属、プラスチックの面でも有価になるもの、ならないものというところで分別できていくので、これは家庭でも先ほどの話ですけれども、可燃、不燃、粗大ごみの分別と排出を意識していけば、有料化していてもいいかなと。家計とのバランスを考えて有料化というのは、ある程度実があるかなとは思いますが。ちょっと参考にならない話で。

○委 員 今の〇〇委員のお話に関連するのですが、例えばガラスとかビン類があります。ビン類も青だとか緑だとか、一升瓶だとかビール瓶だとか透明の瓶とか幾つもあります。

例えば、熊本県の水俣市では23通りの分別をやっていて、同じ瓶といっても、一升瓶もあれば青い瓶もある、茶色の瓶、これは一緒にできないそうです。青い瓶は青い瓶でまとめて有価商品として出す。ビール瓶はビール瓶、小さな瓶はまた別というふうに非常に細かく分けているのです。分別の徹底というのは、瓶一つとってもそういうことではないかと思うのです。そうすると、たしか一自治会に700万ぐらいの還付金が市のほうから還元されてくるという話を聞いたのですけれども。白井市の場合でも、そういう資源ごみを収集されて、加工されて、商品化される場合は、そういう方向に向くのかどうか。それをお伺いしたい。

○会 長 事務局、いかがでしょうか。

○事務局 まず、今のご意見でございますが、瓶は実に大小、色もさまざまで、これを全て同一で扱おうと、さっき言ったように商品価値としてはなくなってしまうというのがよくあります。

現在、白井市の資源回収団体では、多少扱っているということは聞いているのですけれども、こういう細かな分類まで行けるかということ、実はやっている団体の事情もございまして、現時点ではなかなか難しいだろうというふうに考えております。

ただ、今後こういう形でどんどん、どんどんやることによってごみが減ってくれば、当然自分たちが払ったお金が別のところに有効に使えるというのがもう少し浸透してくれば、このような細かな分類に向けて、先々はそういうところまで

持っていけたらいいのかなというふうには考えております。

○会 長 生ごみですから、本当にきちっとした生ごみとして分別できれば、〇〇委員の得意な分野で堆肥的なところに持っていければ一番いいのでしょうけれども、非常に難しいところもあるのかなというところもあります。

きょうは一般公募で初めて参加された皆さんがおられますので、ぜひご意見いただければと思いますけれども。

○委 員 3ページなのですけれども、支援制度のことなのですけれども、手数料の減免とうたってありますが、家庭ごみの有料化に伴い、有料化の対象としてなじまないボランティア清掃ということがうたってありますので、この内容を市ではどういう考えをお持ちでございますか。減免等の対応を検討する必要があるというふうにうたってありますので、この内容を知りたいのですけれども。このボランティア清掃というのは、どういうことですか。

○事務局 現在、ごみゼロは、つい先だってやっていたいて、ご参加いただいているかと思うのですけれども、このほかに以前、春と秋、2回やっていたものです。秋をなくしました。そのかわり市民の皆さんが、例えば身近で四、五人集まって自分たちの身近なところをきれいにしようという、まちピカという制度を設けてございます。こういうところで集めたごみをボランティアでしていただいておりますので、回収をさせていただいているという状況もございます。こういう部分を支援制度でボランティア清掃と捉えています。

○委 員 ちなみに私たちの団地は、資源ごみ、瓶、缶、ペットボトル類を毎週土曜日にボランティアをやっているのですけれども、それは廃棄すると、その手数料をいただけるシステムなのです。例えば瓶、缶のキロ数で幾らといただいて、なるべく木曜日に出さない。木曜日に出すと回収しますでしょう、市の手数料になるわけです。

○事務局 資源回収運動にご参加いただいているということですよ。それは、市のほうにごみを回収で出しますと、当然、運搬経費で手数料がかかります。それを資源回収運動でやっていただくと、その分のごみが減るわけです。減ったごみは、きちんと資源回収でリサイクルされまして、リサイクルされたことによって、集めたキロ数で、市のほうは5円の補助金、奨励金を出します。

あと、相場がつけばなのですけれども、業者のほうで売って多少の利益が出て、キャッシュバックで団体さんのほうに幾らかお金が入る、こういう制度も今やっています。今、〇〇委員がおっしゃったのは、そういうこと。

○委員 減免等の対応を検討する必要があるということをうたっていますので、どうい
う対応をとるべきですか。

○委員 私のほうから申し上げます。ボランティア清掃については、ボランティア袋と
いうのを用意している自治体と、それからシールを普通の透明な袋に張っていた
だくというような形をとっている自治体が多いです。4月に有料化しました東京
の小平市の場合は、シールをボランティア清掃をやる方々に差し上げて張ってい
ただくという形。

それから、むしろ多いのは、ボランティア清掃袋というのをボランティア清掃
をやりますよという団体とか、個人でもいいのですけれども、市のほうに申請し
ていただくと差し上げるという形です。いずれにせよ有料の指定袋は使わなくて
もいいという形です。

それと最近、有料化をする自治体は、子育て支援とか、高齢の方でも紙おむつ
をお使いになる家庭がふえていまして、そういう場合は、なかなかごみを減らせ
ないような事情ですので、紙おむつについては無料にするという自治体もふえて
います。有料化する自治体は大体それをやっている感じですが。白井でもおやりに
なるとすれば、そこまで減免措置をおとりになったほうがいいかなと思います。

○事務局 補足しますと、さっき部長のほうからありました、今、白井でやっています
まちピカ運動については、こちらのほうから運動を行う団体さんに袋を提供する形
で行っておりまして、有料化になった際におきましても、同じような形で市のほ
うから袋を提供する形で活動していただいて、回収も市のほうで回収しようとい
うことで考えていこうかなという感じになると思います。それで、有料化が軽減
されるというふうに考えて。

○委員 それは無償ではなくて、減免になるということですか。

○事務局 減免ということですか。

○事務局 無償と減免の違いは、もともと有料化して、お金をいただきますが無償なの
です。その中で、特に必要があるので、その部分のお金はいただかない、減免しま
すというのが減免です。無償というのは、あくまでも初めからただ。幾分違いが
ありますので。

○委員 私どもは、いただいたお金を、防災会という会があるのです。そこに全部寄附
するのです。年間6万か7万になるのです。なるべく毎週土曜日の資源回収の日
に出すようにみんな依頼しているのですけれども、なかなか難しい問題もありま
して。新聞は、多分新聞の回収業者がありまして、それで出すと、例えばトイレ

ットペーパーとかそういうのをいただいて、そちらに出す方が結構あります。それは、ごみゼロのときに使ったのです。

○事務局　実は、それがちょっと悩みの種でして、よくそういうご相談をいただく自治会さんが来るのです。先ほど言いました袋、これがまちピカで、さっき言ったボランティア清掃をやっている人にお渡しする袋です。これが不燃物で燃えないごみです。これが可燃物、燃やすごみです（実際に回収袋を委員に見せる）。先ほど〇〇からも話ありましたけれども、有料化された以降、どのような形でこれをしていくかというのが、今回検討していただく一つなのですけれども、基本的にはこれと同じような形態でやっていったほうがいいのかというの、今事務局の考えなのです。

○会　長　〇〇委員、大丈夫ですか。

○委　員　はい。

○委　員　私も紙おむつのことを質問したかったのですけれども、有料化の対象になじまないかもしれませんけれども、世の中的には子育て支援というのが言われていますので、紙おむつだけの袋、少し安い単価の袋にするとか、無償となると、またいろいろ問題があると思うので、安い金額で出せるというふうに検討していただきたいなと思います。じゃないと、今のお母さんたちは、公民館とか児童館とかに紙おむつをこそっと置いていくという傾向がありますので、それをぜひ検討していただきたいと思います。

○会　長　有料化になると、どこかが負担することになるので。

あとは、ボランティア団体がよく清掃活動をして、ごみを袋に入れて出しているじゃないですか。あれは、最終的に処理的なものは減免になっているのか、どこかがお金を負担しているのかというのは。

○事務局　ボランティア団体さん、今まちピカで出していただいたごみについては、市のほうで回収します。これは印西のクリーンセンターに搬入いたします。ということは、クリーンセンターのほうでお金がかかっていますけれども、そのお金は、市のほうが別途お支払いしているという状況でございます。だから、あそこでただで皆さんでやっていただいて、回収していったと言うのですけれども、経費的には一切かかっていない状態です。本当は、まちを汚さない、そういうところまでの意識改革を皆さんでやっていただけると、ごみが出なければ処理費がかからないということになりますので。実はモラル的な問題になってしまうのですけれども、そういったところまで行ければ、なおよろしいかなと思います。

○会 長 ボランティア団体も市に幾つかあって、清掃活動をしてごみを出すのだけれども、それが果たしていいことなのか、悪いことなのかというところを今言われた各モラルの問題で、ごみを捨てないのが一番ベストという話になるので、意識をしっかりと啓発していけるような状況に持っていかないとダメなのかなど。必ずどこかでお金がかかっているわけですからということですよ。

○委 員 まちピカの制度というのは、よく道路とかでごみを拾っているあれですよ。

○事務局 わかりやすく言えば、ごみゼロのミニ版だと思ってください。ごみゼロは市内一斉にやります。あるいは県で同じようなことをやっていますのでやるのですけれども、そうではなくて、例えばここに今、〇〇委員から、〇〇委員から、私と〇〇とかで4人集まりましたということで、ここちょっと汚れているからみんなで掃除しようということで、まちピカの申請を環境課に出していただきますと、それでさっきお見せした袋を支給して、いつ運動します、回収をどういうふうにしますかという打ち合わせをしています。それでやっていただいております。その節は、ぜひやっていただければありがたいと。

○委 員 よく見かけるので、どういうシステムでやっているのかなと思っていました。

○事務局 ちょっとPR不足の点もあるのですけれども、そういう形でやっていますので、もし何かの機会がありましたら、皆さんからもPRをお願いできたらと。

○委 員 私は一つのボランティアをやっているのですけれども、そこで資源回収、月に1回か2回やっているのですけれども、それは特定の業者が出まして集めてくるのです。何を集めるのかというと、アルミ缶、それから鉄のスチール缶、それとあと、紙類、段ボールを含めまして、そういったものを集めてもらっているのですが、そこは、今度それを事業者が、資源ですから、もとのほうに販売するわけです。そこから業者が費用をもらって、お金をもらって我々にその一部を還元してもらっているわけです。これは普通の一般の生ごみとは違いますので、あくまでも資源ですから、この燃やさないごみというのは、さっき出ていましたけれども、それとちょっと中に入っているのではないかという気がしたのですけれども。その再資源を利用するものと、それから生ごみのものと分けて理解されたほうがよろしいかと思うのですけれども。そのたびに、この間もそういう団体を集めて説明会がここございました。そのときにもそういう話が出ましたので、どういうものが引き取り可能かとか、そういう話が出ましたので、その辺と今のあれと混同しないようにしていただきたいと思います。以上です。

○会 長 ですから、捨てるばかりではなくて、資源として販売もできますよと、そうい

う利益も還元できますよという、そういった流れのところもちょっとありますよというところをつくるなどしておくべき状況があるかなと思います。

○事務局 ○○委員さんのおむつの件で補足させていただきますと、紙おむつの支援の関係なのですが、私、今お話の出ました所に在住してまして。実際に支援を受けていたので、どういうふうにあったかというのを話させていただきますと、対象が、生まれてから3歳までの期間は免除しますよという形になっていて、子供が生まれまして数カ月後ぐらいに、3歳になるまでこのぐらい出るだろうという見込みの量の袋が一遍に送られてくるのです。それにおむつとかごみを入れて出すという。千葉市ではそういう方法になっています。それも含めて、もし紙おむつを減免するという話になった場合には、やり方は審議会で検討していくことになるのかなとは思いますが。

○会 長 紙おむつもいろいろな問題が。重量がかさばりますから。

○委 員 今の関連で、まちピカの袋は、大きさは1種類ですか。

○事務局 1種類です。

○委 員 それは何キロになりますか。何リットルの袋ですか。ここで共有しておかないと、今リッター何円という話が出ていますけれども、皆さんの頭の中がいろいろだと思っただけです。大体あれが何リットルかを皆さん知っておいたほうが、今後の検討になるのだからと思って。

○事務局 サイズ的には、ごみ袋大きいものと小さいものがあります。その小さいサイズです。

○委 員 最大だと、大体45リットルですよ。

○事務局 恐らく20ぐらい。

○事務局 後で正式な数値は。

○会 長 よく袋に何リットル、何リットルって明記してあるから、それも知っておくといいかも。

○委 員 確認をお願いします。今、燃えるごみで、例えば家庭から出した植栽や何かの木を切ったので、紐で縛って、袋に入れなくても出せる状態のがありますよね。それも今回の場合は、袋に全部詰め込んで出すということなのですか。燃やすご

みのところの枝葉というのが、表2のところでは全く入っていないくて、どうなのかなと思ったのです。

○事務局 家庭から出た剪定枝になりますので、これは太さ制限だとか何かあるのですけれども、実は、枝に葉っぱがついたものが出されたりなんかして、大体45センチに切って縛ればいいですよということにしているのですが、多少それを超えるような大きさのものも出ているのが実態でございます。これを有料化どうするかというのが課題になっておりまして、今回皆さんにもいろいろお知恵を拝借しながら検討してまいりたいと思っています。

先ほど袋という話をしたのですけれども、あれを袋に入れると、その袋自体がごみですから、減量化の趣旨に反してしまいますので、必要がないものまで無駄なごみをつくる必要はないのかなというのが。例えば縛って対応するとか、その重さをどうするのだというのは検討しないといけないのかなということで。

○委員 あと、リットル単位の話と、減量は重さの話ですよ。グラムの話ですよ。量と重さというので一致しない部分があるので、例えば生ごみはちょっと乾燥させると水分が減るから軽くなるけれども、かさはいったら、少なくなるものもあるけれども、さっきの枝葉みたいなやつだと、枝が張っていると、そんなに袋の中にも入りもしないし、細かく切らなきゃいけないのだろうと思いついていたのですけれども、一応目標は、グラムを減らす。

○事務局 そうですね。

○委員 そうすると、やっぱり一番有効なのが、生ごみを少しでも水を切るのが手っ取り早く減らせる。同じものでもグラム数が減りやすい、すぐに減ることが可能なので、それだけでも何パーセントでしたっけ、自治会のほうでやられた実績がありましたよね。5.4%減ったのかな。それだけでも5.4%減するという実績があるので、資源ごみを燃えるところから外すというのも一つですし、生ごみは水気を切るというのも重要なことだと思います。

○委員 今の話と関連するのですが、最前の資料では可燃ごみとして、クリーンセンターで燃やすごみが1万トン。その40%は大体生ごみ関係です。生ごみの中の8割が水分だということになっていますから、水切りをもうちょっと徹底すれば、もっと少ないものでクリーンセンターに持っていける。こうなると、ダイオキシンの問題だとか二酸化炭素が出るとか、いろいろな余計なものを燃やすことによって、かえって地域住民の方々にも被害が及ぶということであれば、できるだけ水切りの方法を、例えば新聞紙に広げて乾燥させたものを集積所に出すというように、各人ができるような仕組みをつくる。白井市には自治会がしっかりしたもの

ができていますので、台所を預かる方々のいろいろな情報を、例えば「ごみ減量推進女性会議」というものを設けて、生ごみだけはしっかり水分を減らしましょうというような運動を行うことが大切になってきているのではないかと。

そういうふうにしていかないと、生ごみは減らないし、今後予定されている中間処理施設にも反映しない。処理施設が大体どれぐらいかかるのか、そして一体34年なのか、35年になっているのか、そのところもまだはっきりわからないし、一体こういう減量・削減をすることによって、どれぐらい経費を削減できるのか、あるいは耐用年数が何年延びるのかとかそういう情報も審議会の委員はある程度のことは知っておかないといけない。減量化が重要だとか、削減しましょうとか、資源化しましょうと言っても、持っていく最終的な場所はクリーンセンターになるわけですから、クリーンセンターの費用をできるだけ削減するというのであれば、先ほどから議論が出ているように、いかにして少なくするかという全体の大枠のところもある程度、我々も情報として知っておかなければいけないのではないかと思います。もし事務局のほうで、改修に大体200億円ぐらいかかり、移設場所が吉田というところに決めたということであれば、こういう減量化によって、どれぐらいそれが縮小可能なのか、そういうことはそもそも無理なのか、構成市町が3市町ありますから、白井市だけ突出してそういうことをやっても、それは無理ですよという話なのか、それぞれがケースバイケース、相応の分担で支払う税金の中に加算されていくのか。そうすると、頑張ったところは少なくとも済むというような仕組みのあり方もある程度知っておかないと、どこまでやったらいいのかという見当もつかない。幾ら生ごみを堆肥化しましょうといっても踏ん切れない、いつまでたってもこれができない。だんだんそういうことをずっと教えて頂いて、みんなが処理していけば、ある程度のことは、何から手をつけていったらいいかということが出てくるのではないかと思います。

○会 長 今まさに三つの自治体がクリーンセンターを共同で使うという形になって、やり方としては既に決まっているということなのです。燃やして灰にしたものを埋め立てにするという形になっている。

今、私もその辺で意見を出したことがあるのですがけれども、今、燃やして灰にして埋める時代ではないでしょうという意見も出させてもらったのですがけれども、最初のお話で、まず各ご家庭で生ごみをいかに乾燥してもらうか。乾燥させて堆肥に近づけるようなことができるかどうかというのを例えば行政のほうで漫画チックに、こういうことをすれば、もう少しこの経費を下げられますよというものが果たしてできるのかどうなのか。

面倒なことは誰もしたくないわけですよ。生ごみですから、ベランダに出すとおいが出て、隣近所から苦情が来ても困るとか。この時期でこれだけ高温になっていると乾燥も早いので、割と水分がはけるのも早いのかなという考えはありますけれども。

私がよくやっているのは、寝る前に一度、水切りネットが網になっていますよね。あれをキッチンから出して斜めに傾けた状態で、朝、ある程度水が乾燥しているわけなのです。それを燃えるごみで出すような形をとったりとかしているのですけれども、今、それを捨てるのではなくて、堆肥に持っていくにはどうしたらいいかというシステムがわかっているならば、割と皆さん堆肥のほうに持っていきのかなと。そうすると、それが堆肥のほうに持っていければ、生ごみで燃やす比率というのはえらく減るわけです。重量で経費かけているわけですから、いかに重量を減らすかによって、目標率は大幅に減らすことができるのではないかなというところは行けるのですけれども、そのやり方ですよ。面倒でいらいが出て、そういったものをいかに楽にできるようにするかというやり方がある程度提案されれば、かなりいい線に持っていけるのではないかなと思うのですけれども。

○委員 今の関連で申し上げますと、家庭ごみを有料化しますと、ごみ減量への関心が物すごく高まるのです。そして、今の生ごみの減量についても関心が非常に高まりまして、ほとんどの地方自治体が、生ごみの処理容器に補助金を白井市の場合には3分の2補助をしているというお話があったのですが、されているわけですが、やはり取り組んでみようかという気にさせる容器をそろえないといけないと思うのです。

ちょっと見ますと、表3の4ページ、魅力的なというか、最近はやっているとか注目されているとか、残念ながらそういう容器がないのです。コンポスト、これは一軒家で庭があるとか、そういう家じゃないと使えない。それから、EMぼかしだと思うのですけれども、密閉容器もこれは虫が出ますよね。機械式は電気式なのでしょうけれども、いずれも問題が多いのです。

今、注目されているのが、キエーロというものなのです。黒土を木箱に入れるだけというものですけれども、結構私もそのタイプを使っておりまして、数年間使っていたのですけれども、今の季節ですと、調理をした御飯などですと、1週間から10日で消えてなくなります。ちょっと掘って入れて土をかぶせておくだけで、虫が出た、においの問題とか全くなかったです。

それから、段ボールコンポスト、これも私やったのですけれども、研究室の中でやりました。これもお金がかからないです。段ボールコンポストは、基材つきで3,000円ぐらいで私買いました。

先ほどのキエーロの場合は、生ごみが水と二酸化炭素になるということで全く消えてしまうのです。だからキエーロというのでしょうか。それから、段ボールコンポストのほうは、段ボールの中に基材を入れます。私の場合、3種類ばかりの基材を入れてやったのですけれども、これも手っ取り早くやれるという。集合住宅のベランダに置いておくということですが、段ボールですので、雨風が強いときは家の中にしまいこんだりということもありまして、できる

と思うのですけれども。キエーロの場合は、雨に非常に強いです。ベランダでキエーロで底も木で、それを改良した小型のものもありまして、私は小型のものを使っていたのです。そういう生ごみ処理機を使ってみようかという気にさせるようなレパトリーを広げるということをあらかじめやっておかれたほうがいいと思います。以上です。

○委員 前向きなお話のときに前向きじゃないお話なのですけれども、4ページに、自治会の役員18名の水切りを使用したというお話がありますけれども、サンプル数18って少なくないですか。いろいろな人がいろいろな状況でサンプル数をふやして出したものをもっとデータとして示したほうがいいのじゃないですか。いまいち説得力が、18人かというのがあったのですけれども。もうちょっとそこは数をふやして、いろいろなことを考えてみたほうがいいのではないかなと思いました。ごめんなさい。後ろ向きで申しわけないのですけれども。

○委員 きょう会議でいろいろ伺っていてごちゃごちゃになっているのですが、比較としては、手数料を上げて意識を持っていただいて、白井市は結構ごみも減らしているのだと思うのですが、まず重さが大事だと知っている方は少ないと思うのです。水切りをしてごみの量を減らす。意識をして、すごく大変なことだなと思うのです。ライフ生活を意識して変えていく、そういう運動みたいな感じもしていますし。

ここ数年、七、八年で基本的な運動っておかしいのですけれども、マイバッグ、マイボトル、どれだけ持っているかなとか見ると、七、八年持っているのですけれども、持っていないなと思って。たくさんマイバッグを持っているところは、不思議とお金を払っていることが多くて、マイナスとかポイントがつくところは結構使われていなくて、お金を払うところはみんな意識してマイバッグを持っている。マイボトルも、会合とか行くと、結構持っていまして。

そういう基本は、本当に身近なことから始まっていて、生ごみと言いましても、生ごみにも出さないようにすればいいことです。だから、私もう年ですから怖いものないですから、皮もいただいたりとかそういうふうにして生ごみを出さないようにして。使い切る。冷凍して夜使うとか、そういうのにかかるのに、七、八年かかりましたし、急に袋をやって値段を上げて、急に変わると無理だと思うんですけれども、徐々に徐々に、環境課もいろいろな減量アドバイスもお願いして、いろいろ市役所で、ふるさとまつりでも何でもちょっとやって、徐々に徐々にやっているのですが、なかなか浸透しないのですが、意識改革ですね。

それでどんどんライフ生活というものをみんな、これも生活にいいのかなと考えていただいて。はっきり言って、私の孫ぐらいでも悲惨な状況で、環境も悪くなってくるし、そういうのも意識してもらって生活してくれるように考えてくれるような生活がいいかなと思います。

私ごとですが、犬が死にまして、それまでは紙おむつですか、シートがあったのですが、2週間前ならごみ袋大だったのですが、今は小になってしまっていて。それだけ生活できる。ちょっとくだらないですが、でも意識していくと、やっぱり生ごみは出さないようにする、ごみは減らしていく、資源の使えるものは使っていく、そういう生活をしていけば減りますけれども、時間はかかると思います。何年もかかると思います。今思いました。

○委員 今、〇〇委員から生ごみの堆肥化の話が出ましたけれども、実はごみを減らす中で、生ごみを堆肥化するのが一番やりにくいというか、とっつきにくいことなのです。確かに堆肥化すれば減りますけれども。同時にやっていくことは大事ですけれども、誰も堆肥化できるかといったら、そこは非常に難しい話で、段ボールコンポストの話も出ました。私もやったことがありますけれども、段ボールコンポストも、大体やると途中で挫折したりする人がいて、ほかの市町村でも段ボールコンポストに助成して、費用を負担してやっているところはあるのですが、そこには必ずアドバイザーがいて、ちゃんとフォローしていかないと長続きしないのです。

そういうことを考えると、同時にやることはたくさんあるのですけれども、先ほどご説明があったように、可燃ごみに含まれている雑がみ類の資源化と水切りとか、同時に進めていかないと、全体量としては減らないでしょうし、それにはまず有料化にするというのは前提なのですけれども、どのくらい減るかを想定して、多分袋の値段を決めていくということになるのだと思うのです。だから、何か一つやればいいことではなくて、今おっしゃったように、ライフスタイルを変えるって実は意外と難しい。これだけレジ袋削減のためのマイバッグ運動をさんざんやっても、皆さんスーパーに行って、自分の前に並んでいる方が何人レジ袋を断っていますか。平気でもらっている人はたくさんいますよね。やはり制度と同時にライフスタイルを変えていくことの徹底をしていくことはすごく大切だと思います。それには、いろいろ細かい調査のデータが出ているので、どこからやっていこうかというところがすごく大切なんじゃないかなと思います。

○会長 そういった細かなデータが出たところで、各自治会ですか、そういったところにまた細かくお知らせするとか、そういったのも必要になってくるのかなということになると思います。とにかく知らせていく、生活のスタイルを変えていけるようなきっかけづくりをしていくのも大事なのかなというふうに思います。

その辺、事務局のほうで今後、皆さんの意見を聞きながら前向きに考えていったほうがいいかと。これだけ全部一遍にやろうといったら無理なのですから、まずこれからだったらやりやすいなというのをアドバイスしていただけるような形をとっていただけるといいのかなと思います。

きょうはたまたま〇〇委員なんかもせっかく来ていただいているので、自治会

関係にも、そういった形で意識を植えつけていけるような形をとっていただけるようにすればいいのかなと思います。ぜひその辺をこれから少しずつでも変えていけるような形をとっていただくような方向で持っていただけるといいなと思います。

○委員 単純な質問ですけれども、よろしいですか。これは家庭系ごみの有料化に対する諮問ということはわかっているのですけれども、令和5年度を目標として、市民1人当たり1日455グラムになるようにという目標があると思うのです。もし万が一これが達成できれば、やっぱり有料化となるのですか。その辺、書いておく必要があると思うのですけれども。

○事務局 この455グラムは、現在ガイドラインというものをつくってしまっていて、その目標数値でございます。実は、ここよりも低い自治体はかなりございます。ですから、白井市はさらにその上を行って、もっとお金のかからないごみ行政をやりたいということです。これは達成できても、意識づけということがありますので、これはぜひとも有料化はしないといけないのかなということで現在考えております。

ただ、それ以上に他自治体で効果が出ているので、200グラムとか動いて減ってしまえば、それはどうかなというのはありますが、物理的にそこまでは無理だと思いますので、有料化によって、〇〇委員のお話のように10%から15%は確実に減ってくるというお話もいただいておりますので。

○会長 安心しちゃいけないですよ。

○事務局 上積みができるように、今、皆さんからいろいろいただいたご意見も参考にしながら、一つずつやれることを積み重ねていって。

それと、先ほど〇〇委員からあったご質問だったと思いますけれども、水切りのサンプル数が少ないということで。あれは、実は自治連合会のほうで発案がございまして、その中で、たまたま水切りのグッズが幾つかあったのです。その中で比較的安く購入できて、これだったら行けるかなというものを選んでいただいて購入をいたしました。

確かにサンプル数多くというのはそのとおりなのですが、お金の問題と、あとやっていただける人の問題と両方ございまして、とりあえず自治連の各代表の支部長さんがいらっしゃいますけれども、その支部長さんが中心になって集まったのが18人ということでございました。買ったのは、たしか25だか30ぐらい買ったと思うのですけれども。ということで、集まったのは18人で一生懸命頑張っていた。

ただ、やってみて、評判は悪かった。手でこうやって潰すようなタイプだった

のですけれども、それをやるより手で絞っちゃったほうが早いとか、さっき会長がおっしゃったように、斜めにしておいたから切れるんじゃないとか、そういうようなお話もあって、なかなかこれを一斉に配ってやっていただこうとしても、ちょっと厳しいのかなと。厳しいご意見の中では、これがまた新たなごみになっちゃうじゃないというご意見もございました。ということで、サンプルは確かにとったのですが、余り反映できそうなデータにはならなかったというのが実情です。

○委員 わかりました。ありがとうございます。

○委員 ○○委員のお話で、原単位の目標値を明記しておいたらたらいいいんですかということだったので、5ページのプラスチック製容器と紙類の減る、単純計算で1人当たり130グラム出しているから、それを完璧にすれば、491から130グラムを引けばいいということですよ。簡単にすぐできると思うので、PR不足とみんなの意識がまだ低いというだけだと思うのです。簡単にこれを491グラムからマイナス130グラムぐらいはできるということだと思うので、目標が455なのですから、もっとすごく減らせると思います。

○委員 ちょっと話違いますが、ごみの堆肥化への助成金というのは、受けているのがそんなに数が多くないですよ。限度があるのですか。それとも単純にPR不足ですか。

○事務局 生ごみ処理容器の購入費助成金については、限度は特に設けていない。予算の範囲内という話にもなってしまうのですけれども、その辺については、確かにこちらのほうもずっとやっているということもありまして、なかなかPRできていないところもあるのかなと思いますので、そこはごみの減量化とかを進めて、資源化とかを進めていけることもありますので、先ほどご意見があったように、PRしていくこと、あと助成できる容器の数もふやして、皆さんに少しでも堆肥化を進めていけるような形で進めていければいいのかなと考えてはおります。

○委員 あと、有料化のお金の話なのですからけれども、白井市は印西クリーンセンターを利用して、他市町村と比較したときに白井市だけ高いというのは、すごく市民にとっては負担感があるようなことに感じられます。例えば四街道市が今度有料化するのですけれども、四街道市は、四街道市単独でごみ処理場を持っていてやるのですか。それとも、ほかにも市町村、どこか一緒に。

○事務局 この印西地区環境整備組合の中ですと、さっきお話ししましたけれども、栄町が既に導入しております。栄町で家庭系のごみはやっておりまして、今、白井

市のほうでは検討している段階です。印西市のほうは、まだ導入予定はないです。

○事務局 印西市の件で。印西市には、白井はこういう形で減量化を推進するため、有料化を導入するということは伝えてあります。印西市も実は粗大も無料になっておりますので、こういったあたりから有料化について検討したほうがよろしいのではないかとといったようなご意見をやっぱりいただいているそうです。検討は今されているというのは聞いているのですが、今、〇〇がお話ししましたように、それがいつなのかというのが、まだ定かにはなっていない。

いずれにしても、構成する3自治体でそれぞれ料金が違うというのは、余り好ましい状態ではないということで、白井市だけではなく、もう少し広域的に全体でごみの減量化・資源化をさらに推進とは考えております。

○委員 ぜひともお願いしたいところで、今、白井市も、いつも何だか印西の影に隠れている部分というか、町の発展ということも考えて、若い人たちが入ってきてほしい、空き家がぼつぼつとふえていたりしているので、町の発展のためにも新しい市民が入ってくるのに、魅力あふれるものが何かあるといいなというところで。他市町村から入ってくると、いろいろこういうところではお金が要らなかったのに要るようになったとか、上下水道代が高いだの何だのと比較をして多分入ってくるのです。だから、そういう意味で比較されて遜色ないようにしておかないと、ちょっと隣に行けば無料なのに、ここは有料ね、なんていうふうに、そこだけ見ればそうなのだけれども、違う部分のアピールもできるように、市としてはいろいろな面で市のアピールが行くようにするのがベストだなと思っていました。

今、クリーンセンターを使っていて、ごみの値上げを考えているこの白井市としては、そういう意味でいくと、ちょっと不利な部分があるなというふうに感じているし、白井市内の市民としても、払わなければいけないだろうなということには心にはあるものの、払わなくて済んでいるところもあるのだったらという気持ちもなきにしもあらずというところもあるので、そこをうまく折半できるようにしたいのと、先ほど先生が、少しずつ上げていくのはなかなか難しいので、最初、設定よりも高めにと話をしていただいたので、そういう意味も込めて、きちっと私たちの中で考えていかなくちゃいけないのではないかなと思いました。

○会長 栄町は今、既に有料化になっている。印西と白井だけが今のところ有料にはなっていないけれども、それは白井市としては、財政が圧迫されているから有料化にしようというのではなくて、あくまでもごみを減らすための皆さんの意識を少し高く持ってもらおうという意味合いの一つとして有料化にしたらどうかなというのが一つの方法論なのです。その辺のところをきちっと市民にお伝えしていかないとまずいのかなというふうには感じました。誤解のないように、きっちり

と白井市としては、皆さんの生ごみに対する意識を高めるために仕方なく有料化にするのですという意味合いのものをきっちりとコマーシャルしていかないと、不平不満がどうしても出てしまうのかなというところがあると思いますので、その辺のところをしっかりと上手に持っていけるといいかなと。

今、確かに、これから環境問題もいろいろ変わってきていますから、ただ単純に燃やせばいいだろうという話にもならないと思うので、その辺のシステム的なところもきちっとこれから考えて、今決まっているのだけれども、変えるべきところはしっかりと変えていこうというのも進めていければいいなと思っていますので、ぜひ、これからまだあと5回とかこういう審議がありますので、ぜひいい案を出していただいて、市長のほうに、こういうふうになりましたという形でお届けできればいいなと考えますので、ぜひとも皆さん、よろしくしたいと思います。

時間も本日迫ってきていますので、そのほかありましたら。

○委 員 今おっしゃっていただいた有料化になると、隣の市は無料だけれども、向こうは有料化だと、確かに目に見えるところはそうなのですけれども、7ページの一番最後の表を見ていただくとわかるように、ごみ処理の負担金が、白井市と印西市と栄町によって割合が決まってくるのです。これは要するに、清掃工場に搬入された量に応じて負担金が変わってくるので、この負担金というのは、結局は皆さんの税金なのです。だから、ここが負担が多くなればなるほど、実際教育とか子育てに使えるお金がごみ処理に使われるということになるので、この辺をよく理解して、これを減らすために有料化するのだということを白井市民の方に知っていただくことはすごく大切なのではないかと思います。

○委 員 私は今回のこの廃棄物減量の方向は、白井市の特性とといいますか、これほどの恵まれた自然条件のある市町はこの周辺にはない。私は今回のこのごみ減量推進のための基本的な考え方は、白井市の恵まれた自然をいかに生かして循環型の生物由来のいろいろな廃棄物でも常に土地に還元していく、そういうかなり長期のスパンでものを見ていくと、印西市さんに比べると、白井市のほうははるかに恵まれている。これを僕はぜひ大切にして、今回の有料化の中の方向づけもそういう一つの白井市の有利さ、よさを反映させた方向で持っていったらいいのではないかと思います。

○会 長 印西市は、住みやすい街日本一とかいわれてナンバーワンですけれども、本当にこの白井市、印西市に負けないようなところがあるわけですから、もっともっと生かすべきところなのかなと思います。その辺のところも事務局にしっかりと踏まえていただいて、市民にしっかりといい形で伝えていけるような形でやっていただけるといいかなと思います。

○委員 8ページのスケジュールなのですがけれども、第3回目、先進地視察とありますけれども、行く場所は決まっているのでしょうか。

○事務局 これについては、まだ検討中なのですがけれども、最初は、近々導入するという事で四街道市を検討しているのですがけれども、まだ具体的には、もう一つ行こうとか、あとは構成市の中でもやっている栄町もございますし、あと近隣にもありますので。一応9月ごろには、多少前後するとは思いますがけれども、早目に具体的には決めていこうとは思っております。

○委員 2回目に、近隣の市町村の状況説明とありますけれども、これは一緒にできないのですか。例えば四街道市に移動するときその説明をすとか、そういうふうにはできないのでしょうか。

○事務局 まず、近隣の状況のご説明なのですがけれども、これは〇〇委員がかなり調査いただいております、そういう知見とかのご紹介もいただきながらやっていければいいのかなと考えております、とてもとてもバスの中で移動中に、世間話程度の話になってしまうので、きちんと会議を持ってご説明させていただきたいと。

○委員 申しわけないです。

○会長 あと、白井市の状況と、よその栄町と白井市との違いとかあるかと思うのです。その辺のところを次回、近隣の市町村の状況説明という形になっておりますので、その中でまた踏まえた形で話ができればよろしいかなと思っております、また次回までにとってきていただけるといいかなと思います。よろしく願います。

あとありますか。もう時間もそろそろ迫ってきたので、2に入らせていただきたいと思いますのですがけれども。よろしいでしょうか。

それでは、議題2のほうに移らせていただきたいと思いますのですがけれども、その他について、事務局よりご説明お願いいたします。

○事務局 それでは、1点だけなのですがけれども、報告事項ということで、前回の3月の審議会で、〇〇委員から提案がありました雑がみ回収ボックスの件なのですがけれども、検討いたしまして、今こちらにあるものなのですがけれども、つくりました。設置場所、周知はこれからしていくことになるのですがけれども、本庁舎の玄関に入ってきて右のほうに行くと、乾電池とか小型家電の回収ボックスがあるので、あの横に置かせてもらって、していこうということで考えております。一応、今こちらに置かせていただいたのですがけれども、これで啓発して市民の皆さんにいただくかなと考えております。

- 委員 何個用意したのですか。
- 事務局 今のところは1個で、一応市役所に。
- 委員 それでは、ほとんど意味ないのじゃないの。住民目線から見て。
- 事務局 前回、〇〇委員から、三島市ですかね。
- 委員 熱海市です。
- 事務局 熱海のご紹介いただきまして、熱海のを調べたのですけれども、盛大にやっていますよね。
- 委員 要は自宅の近くにないと、全然意味がない。市役所にごみ持ってくる人ってほとんどいない。だから、モデル地区を決めて、ごみの集積場の横に置くとかそういうことをやらないと、実際効果は全然見えない。
- 事務局 まず1点、ごみの集積場というお話もあったのですけれども、まずは天候で左右されます。雨のときは一切使えません。そういうことと、あと回収のシステムをどうするかという、それがかなり大きな問題になってまいります。ということで、とりあえずは啓発用で一つつくりました。ちょっとDIYのセンスがないのです。職員が手づくりでやっております、あと、ここに気のきいたラッピングとか何かを少しやってPR効果を高めたいと。よければ、今後各センターですとか、そういうところにも広げて、少しずつ意識改革をしていきたいと。最初から全てやればいいのかのですけれども、なかなかお金の問題が。
- 委員 燃えるごみの30%、40%が雑がみなのでしょう。
- 事務局 例えばレシートです。
- 委員 実際は大量ですよ。容積も。
- 事務局 大量というか、例えばコンビニございます。コンビニで買って領収書出ますよね。そのときに、家計簿できちんと整理する方は、持って行って家計簿にペタペタ張ると思うのですけれども、大概の人は、買って、いただきました、それで終わりなのです。そういったものを持って行って、幾らかかったね、そこにあれば、そこにポイと入れていただくということで。
- 委員 もう一つ、雑がみの定義を知っている人って、ここにいる人はみんな知ってい

ると思いますけれども、一般の人は知りません。

○事務局 それはきちんとここに表示をするように、今担当が考えておりますので。

○委員 実際、雑がみって、どこまでが雑がみですか。僕もよく知らない。紙だったら何でもいいわけ。

○事務局 例えばレシートです。あとは……。

○委員 こういうものですよ（コピー用紙）。あとダイレクトメールとか封筒とか。お菓子の箱なども。

○事務局 実は、意外とレシートとかなんかは、ポイポイごみ箱に入れてしまう。

○委員 そんなのを市役所に持っていくかね。持ってこないでしょう、普通。

○事務局 たまたま持っていたやつはそこに捨てていって、うちで出さないようにすると、こういうことです。おっしゃることはよくわかります。だから、少しずつでも、どこからでもいいから少しずつでも、そういう意識改革の芽を。

○委員 1カ所でも2カ所でもいいから、どこか町の中に置くとか。

○事務局 それは今後の展開で、これを皮切りにそういうところもやっていけばいいなという。

○委員 私は思います。市民目線で。

○事務局 ご意見ごもっともだと思いますので、この先、少し担当のほうも気合い入れてデータをとったりなんかしますので、それをまたご報告させていただきたいと思います。

○委員 PRって大事ですよ。

○事務局 できれば誰か、ここにあるよということで、雑がみ入れるところを広報写真かなんか撮って、そこを掲載できればいいなということで、きょうここで撮影しよう。本当はラッピングして、もっときれいになった状態のものを写したかったのですが。きょう広報頼んであるの。

- 事務局 頼んであります。
- 事務局 ということなので、〇〇委員に。
- 委員 一番若い彼女に、いらなくなった紙を入れて。
- 事務局 親子みたいな感じでもいいですけども。
- 委員 できたら、お子さんのお菓子の箱とかも一緒に。こういうものも雑がみなのだと見てわかるように。
- 事務局 何が雑がみかというのは、わかりやすくPRできるような。
- 委員 それは啓蒙が必要です。
- 委員 それを広報にちょっと載せるだけで、市民には1回は見るチャンスはあるわけだから。市役所に何か届けに行くとき、家にあるこの雑がみは持って入れてこようとか。
- 事務局 自分でこういう小さな袋にぼんぼん入れていただいて、出すときもあるのです。
- 会長 そういったことをやりながら、市民からもいろいろな声が上がってくるかもしれません。それもスタートということで。
- 事務局 とりあえず審議会からの提案なので、すぐ実現したいという思いでつくりましたので。
- 会長 こういう方法もあるだろう、こういうものもあるよとか、いろいろ上がってくると思うので、それも一つのきっかけとして。
- 委員 ただ、変なものを入れる人はいると思いますよ。
- 事務局 それを入れられないように、ラッピングを施すのです。
- 委員 分別するのは大変だから。
- 委員 だから、こういうものを入れてくださいという広報が大事ですよ。

○会 長 よろしいでしょうか。よろしければ終了させていただきたいのですが、
以上で、次回また持ち越しがもしあれば、次回に持ち越していただいて、本日は以上で予定していた議事は全て終了させていただきます。ご協力ありがとうございました。この後は、事務局にお任せいたします。よろしくお願いいたします。

○事務局 会長、議事の進行ありがとうございました。
なお、次回の審議会の日程につきましては、決定次第改めてご連絡させていただきますのでよろしくお願いいたします。
本日は、長時間にわたりありがとうございました。